

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2021年（令和3年）10月から12月

1 調査期間 2021年（令和3）年10月～12月（第3四半期）

2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者

3 回答状況

製造業	11社
建設業	1社
小売業	3社
サービス業	1社
飲食業	2社
観光業	4社
計	22社

4 調査項目 ① 3か月前と比べて

② 前年同期と比べて

③ 3か月後の見通し

※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。

5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 3

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べると全体の業況DIは+4.5から+27.3と22.8ポイントとなり、改善傾向である。その要因は、飲食業及び製造業が全体の数値を押し上げている。

業種別では、飲食業は-33.3から+100へ133.3ポイント吊り上がっており、10月から12月にかけては新型コロナウイルス感染症が落ち着いていたころであった。また、忘年会シーズンも重なり、ここぞとばかりに懇親会等を開催したのではないかと。経営者のコメントからもうかがい知れる。

製造業の3か月前と比べるとでは+8.3から+36.4へ28.1ポイント上がっている。前年同期比と比べても+50から+63.6と13.6ポイント上昇しており、かなり改善されてきている。

前年同期比（2020年10月から12月）では全体数値は+40.9であり、新型コロナウイルス感染症の影響から1年以上が経っているが、感染対策を講じながら経済は少しずつ廻ってきている印象も受ける。

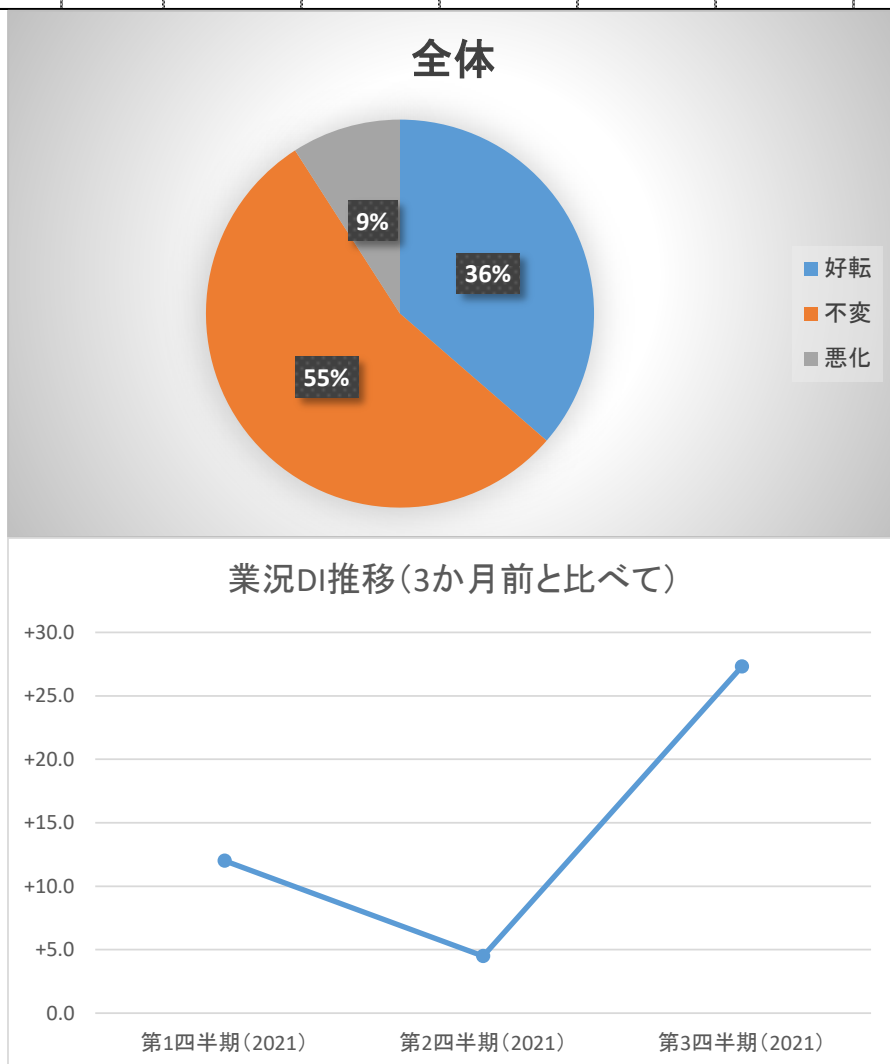
3か月後の見通しでは、オミクロン株の出現により、予断を許さない状況であるため全体数値も-9.1ポイントとなっている。

工業も予定されていた2月の展示商談会は実施されたが、来場者・出展者とも低調な動きであった。

現在、国からは事業復活支援金、町からは感染症対策環境整備支援も出てきており、これらの支援金を活用することも重要であるが、先を見越して小規模事業者持続化補助金や事業再構築補助金を活用して、新たなビジネス展開をすることも重要である。

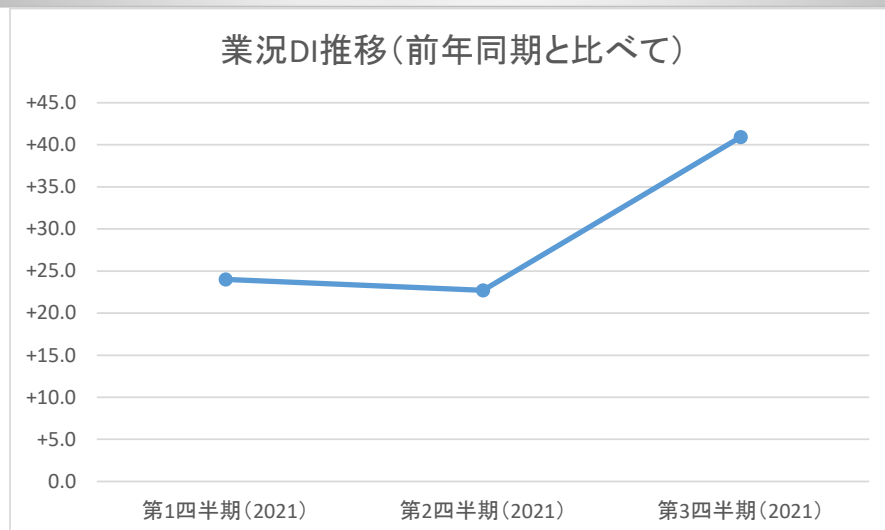
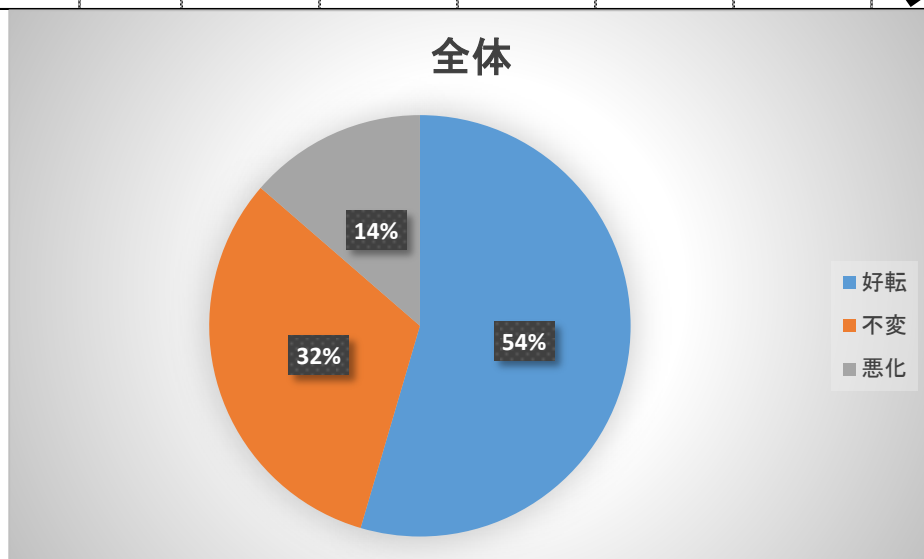
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	8	12	2	22		
	構成比	36.4%	54.5%	9.1%		+27.3	↗
製造業	実数	4	7	0	11		
	構成比	36.4%	63.6%	0.0%		+36.4	↗
建設業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
小売業	実数	1	1	1	3		
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	↘
サービス業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
飲食業	実数	2	0	0	2		
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	↗
観光業	実数	1	2	1	4		
	構成比	25.0%	50.0%	25.0%		0.0	→



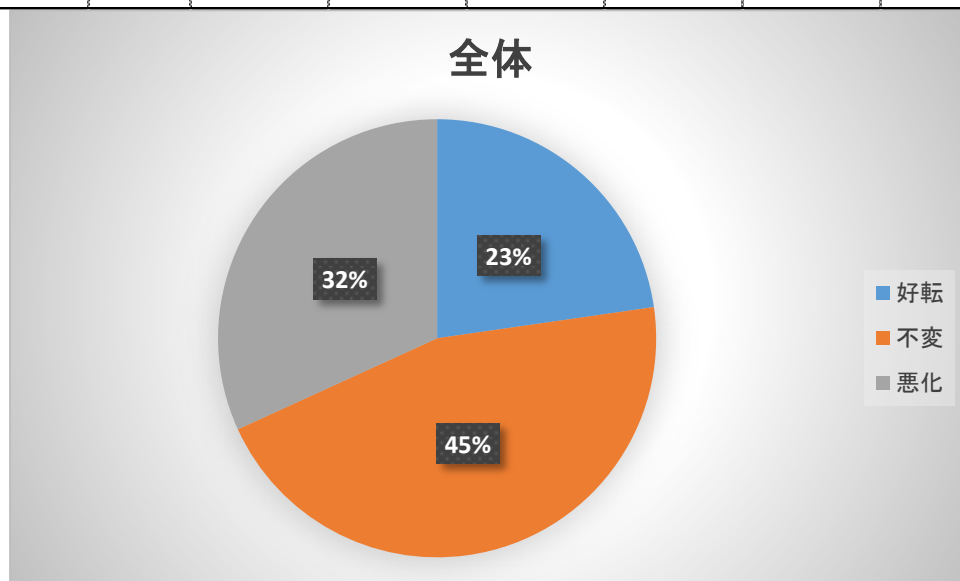
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	12	7	3	22		
	構成比	54.5%	31.8%	13.6%		+40.9	↗
製造業	実数	8	2	1	11		
	構成比	72.7%	18.2%	9.1%		+63.6	↗
建設業	実数	1	0	0	1		
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	↗
小売業	実数	1	1	1	3		
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	→
サービス業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
飲食業	実数	1	1	0	2		
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	↗
観光業	実数	1	2	1	4		
	構成比	25.0%	50.0%	25.0%		0.0	↗



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	5	10	7	22		
	構成比	22.7%	45.5%	31.8%		-9.1	↘
製造業	実数	3	6	2	11		
	構成比	27.3%	54.5%	18.2%		+9.1	↗
建設業	実数	0	0	1	1		
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	→
小売業	実数	0	1	2	3		
	構成比	0.0%	33.3%	66.7%		-66.7	↘
サービス業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
飲食業	実数	1	1	0	2		
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	↘
観光業	実数	1	1	2	4		
	構成比	25.0%	25.0%	50.0%		-25.0	↘



<経営者の眼（見方）>

通信の5Gのインフラ整備で受注が好調である。また人手不足で今後の生産計画に支障を生じる事になりそうである。	製造業
引続き仕事量は見込めるものの原材料の調達に不安を感じています。	製造業
足元では地域振興券等の恩恵もあり好調。今後の見通しはコロナ禍次第であり、不透明感は継続。	飲食業
急激な脱炭素や新型コロナ等により原油価格が高騰しており、全般的に粗利が減少している。	小売業
3月までの受注は好調だが資材不足が懸念され不安定な見通し。	製造業
昨年比べると、対応可能な生産体制の構築が出来つつある。極端なマイナス成長ではないと思われるが、諸物価の高騰による企業の収益がかなり影響するのではと思う。	製造業
オミクロン株の感染拡大、第6波が心配される。	観光業
受注は回復傾向にあるが、原材料高騰、調達難、円安が経営に影響有	製造業
変異株増加で1月後半からの悪化が気になる所です、車両販売も納期遅延が回復するめどもないので厳しい一年になりそうです。	小売業
感染状況の改善により、観光客が増えた。また、各種クーポンの利用期限が11月末のものがいくつかあり、同時に11月から利用開始したクーポンもあった為、11月のクーポン利用者が増えた。12月後半から感染者の増加が見られるので今後が心配だ。	飲食業
新型コロナウイルス感染拡大のため団体旅行が改めてキャンセルになっている。	観光業
材料及び部品不足により客先からの生産調整が発生している。需要はあるが作れないのが実情で、売れるマーケットはあるが生産出来ない状況が発生している。中国の動向が大きく、オリンピックが終わってからのキーポイントになりうる。	製造業
各メーカー、仕入れ先の値上げが相次いでいます。仕入れまでの時間も以前に比べ長くなるだけでなく、納期判明までの連絡そのものが遅くなっている状況です。値上げに伴う需要の先食いをしている感があり、不透明な状況が続くと思われます。	小売業
大きな公共工事が減っている	建設業
緊急事態宣言が発令されると同時にキャンセルが続出し、予約問い合わせなどが大幅に減少しているため予測が立たない	観光業
今年度前半はEV関係の仕事が好調を維持すると思われ、また住宅関係もリフォーム工事が好調のため、夏場まで受注は続きそうである。 全体的に幅広い分野から案件が来ているため今年は期待ができる。	製造業
人手不足でオペレーターが欲しい	製造業